



小樽市 北海道ワイン株式会社 『日本ワイン・GI北海道ワインをアジア各国へ』

【主な品目】

ワイン

【主な輸出先国・地域】

中国、香港、台湾、タイ、シンガポール等

【輸出に取り組んだ経緯と概要】

- ◆ 将来の国内酒類消費減少に備え、道内のブドウ農業を安定・継続的に支えていくための新たな販路として、2002年より輸出を開始。
- ◆ 各省庁、JETRO、JFOODO、自治体の協力・支援を頂きながら、現地での試飲会、展示会、プロモーションに積極的に参加し、徐々に販路を拡大。
- ◆ 令和3年は中国のWEB販売が急増したが、令和4年度に激減。国内輸送ルートへの指摘もあり、回復が難しい為、中国以外の国への輸出販促と国内インバウンド誘致を強化している。

【輸出実績】（平成14年より輸出開始）

	輸出額(万円)	輸出量(本)	出荷時期
令和4年	1,830	20,000	通年
令和3年	4,300	50,000	
令和2年	1,800	20,000	



バンコク商談会にてプレゼンの様子

【輸出に取り組む際に生じた課題及び対応】

- 日本国内輸送ルート（北海道から陸路で本州の港まで）で特定地域を通過することに対し中国当局より指摘があり、輸出しづらい状況である。
- タイでは、酒類の販売時間の限定や無料試飲の禁止など、酒類の販売に規制がある。そのため、タイのフェアへ出展した際、販売時間を調整したり、試飲を有料としたりなどの工夫を行った。フェアでは、当社のワインの味わいが良いと高評価であったため、高単価のワインにも購買意欲が旺盛で売切れが続出するなど好評であり、今後に期待。



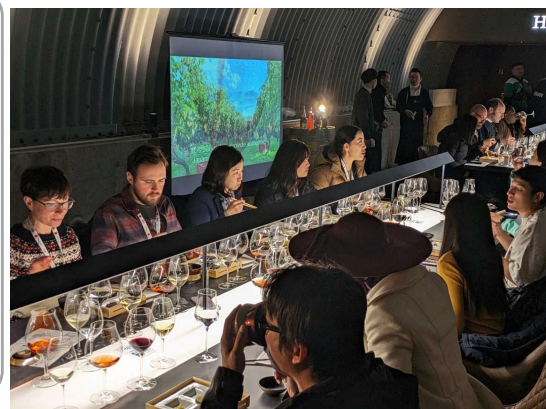
バンコクフェアにて販売の様子

【今後の課題・展望】

- 国税庁から「北海道」がワインの地理的表示(GI)に指定されたことは、世界的に優良なワイン産地「Hokkaido」への大きな1歩となった。
- 道産ワイン分野への学術的な支援は大変心強く、UCデイビスとナパバレーの成功例にならい、北海道大学と道産ワイン生産者が連携し、更なる品質の向上と強いワイン産地作りを目指している。また、道産ワインと北海道の食との連携を通して、輸出とインバウンド観光の両面で、道産ワインのブランドが高まることに期待。

【ウェブサイト】 <https://www.hokkaidowine.com>

【連絡先】 担当者名: 営業部 中澤部長 TEL: 0134-34-2181



地元シェフと協働し、海外富裕層へアプローチ